

全般	計画	土づくり	苗づくり	植付け	初期	中期	後期	収穫	調製	出荷
----	----	------	------	-----	----	----	----	----	----	----

農地の保全管理

規範項目 14

必須・重要・推奨

環

## 有機物の施用等による適切な土づくり

堆肥等の有機物は、農業の生産性の向上や安定化のみならず、農地や土壌が有する環境保全機能の維持・向上にとっても不可欠なものです。また、県内の沖積砂壤土地帯では、土壌の物理性などの改善に必要となる腐植含量の不足が顕著になっています。このことから、堆肥等の有機物の施用など、積極的な土づくりに努めましょう。

### 取組事項

- ・ 土壌診断により土壌の状態を把握する。
- ・ 堆肥や緑肥等の積極的な施用により土壌への有機物の供給に努める。
- ・ ケイ酸質資材等の土壌改良資材を積極的に施用する。

土壌有機物は、土壌の物理的、化学的及び生物的性質を良好に保ち、また、可給態窒素等の養分を作物等に持続的に供給するために極めて重要な役割を果たしています。一方で、こうした土壌有機物は、徐々に消耗していくものであるため、年々の営農の中において堆肥等の適正な施用により、これを補給していくことが必要です。

#### 【土壌診断の実施】

土壌への有機物や土壌改良資材の供給、深耕や排水性の改良等の必要性を知るためには、数年に一度は腐植含量等についての土壌診断を実施して、土壌の状態を知ることが重要です。土壌診断は、県やJA等の助言・指導を得ながら行いましょう。

#### 【有機物の施用】

家畜排せつ物等を堆積・発酵させた完熟堆肥のほか、稲わら等の作物残さのすき込みや緑肥の栽培による有機物の積極的な施用に努め、腐植含量を高めましょう。

（ただし、強い湿田など、土づくりの観点から見ても有機物施用の必要性が少ない土壌条件の場合はこの限りではありません）。

また、永年草地や果樹園においては、牧草や下草等の植生を維持することによっても同様の効果が期待できます（ただし、永年草地の維持に堆肥等の施用は不可欠です）。

一方、有機物には窒素等の肥料成分が含まれることから、肥料の施用に関しては、後述の「規範項目16 土壌の状況を踏まえた適正な施肥（基肥）」に示される考え方をもとに適切な施用量に調節することが重要です。

#### 【土壌改良資材の施用】

土壌診断結果等に基づき、ケイ酸質資材等の土壌改良資材の施用による不足成分や酸度矯正など、適切な土壌改良を行うことが重要です。

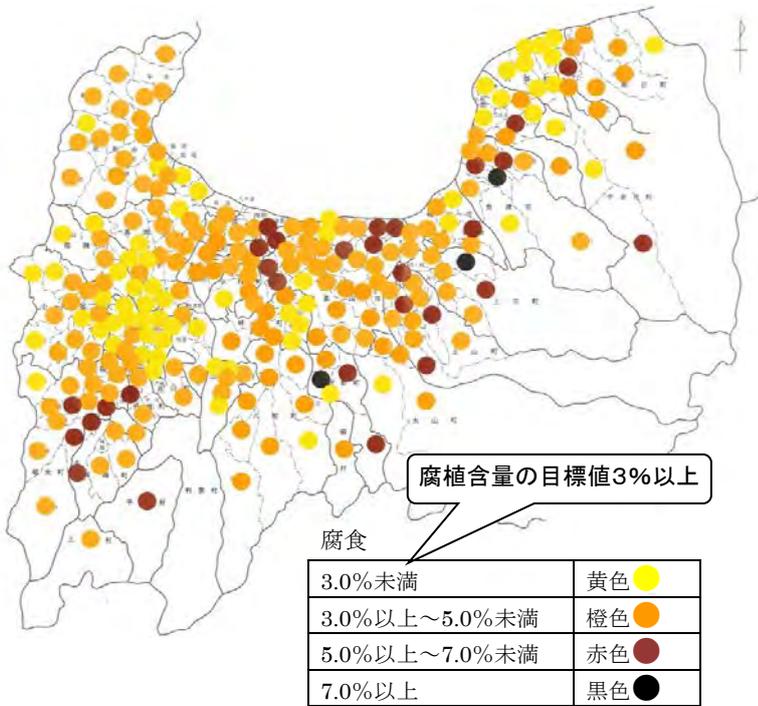


図1 富山県の水田土壌における旧農協支所別の腐植含量 (H20、21年 肥料高騰対策支援事業)

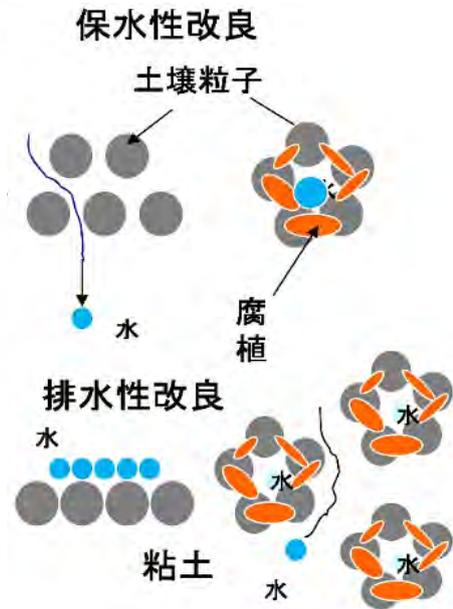


図2 腐植による保水性等の改良 (イメージ)

■ 腐植の効果

- ① 土の粒子をくっつけるので、保水性、透水性が良好になります。
- ② 窒素、リン酸など様々な養分が供給できます。
- ③ CEC(塩基置換容量)が増加します。

表 堆肥の施用の目安

		乾田		半湿田・粘質田	
		秋施用	春施用	秋施用	春施用
牛ふん堆肥	施用量	1～2t/10a	1～2t/10a	1～1.5t/10a	1t/10a
	基肥N減肥量	無	1～2kg/10a	1～2kg/10a	1～2kg/10a
豚ふん堆肥	施用量	1～2t/10a	1t/10a	1～1.5t/10a	1t～500kg/10a
	基肥N減肥量	無	1～2kg/10a	1～2kg/10a	1～2kg/10a
発酵鶏糞堆肥	施用量	150kg/10a	100kg/10a	100kg/10a	75kg/10a
	基肥N減肥量	無	1～2kg/10a	1～2kg/10a	1～2kg/10a
籾殻堆肥	施用量	2t/10a	2t/10a	1～2t/10a	1t/10a
	基肥N減肥量	無	無	無	無



図3 堆肥散布



図4 緑肥すき込み(クロタリヤ)

【根拠法令等】

- 地力増進法・地力増進基本指針 (平成20年度農林水産省公表)
- 環境と調和のとれた農業生産活動規範について (平成16年度農林水産省通知)